

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0192500015		
法人名	株式会社 アマランス		
事業所名	グループホーム あまらんす1F大地		
所在地	余市郡赤井川村字赤井川409番地1		
自己評価作成日	令和5年 10月 12日	評価結果市町村受理日	令和6年1月9日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaikokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=koubvou_detail_022_kani=true&JigvosvoCd=0192500015-00&ServiceCd=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和5年11月29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

◎日本で一番美しい村の一つである赤井川村の小高い丘に位置し、四季折々の色彩豊かな景色を眺め、心穏やかにお過ごし頂ける。
◎リビングの大きな窓から眺望、広い庭があり、ゆったりとした生活ができる。
◎お花見ドライブ、さくらんぼ狩りなど季節に合わせた行事計画参加して頂いています。
◎季節の素材を取り入れた行事食を召し上がって頂いている。
◎村の文化祭に利用者様の手作りの作品を出品したり見に行くなど、積極的に参加している。
◎地域のサークルに入会する等、地域一員として生活できるよう努力している。
◎火災避難訓練、地震避難訓練、原子力防災訓練で、緊急非常時に備えている。
◎運営推進会議には、役場職員、消防署、社会福祉協議会、町内会会長、ご家族に参加して頂いている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

豊かな自然に囲まれた赤井川村に建つ2階建て2ユニットのグループホームである。ダイニングルームの窓から四季折々に変化する広大な景色が見渡せる。感染症対策として以前のように頻繁な外出は控えているが屋内で楽しめるゲームをしたり、事業所周辺の散歩や庭先のブルーベリー摘み、ドライブで桜、コスモス、ひまわり畑の見学やさくらんぼ狩りへ出かけている。家族の居室訪問が難しい時期であっても、事業所発行の「あまらんす便り」と、電話連絡で身体状況や暮らしぶりを伝えることで、面会に來られない家族からの信頼が得られている。要介護状態が重度化した場合は、職員が穏やかに暮らせるよう寄り添いながら支援し医療機関への移行をしている。勤続年数の長いベテランの職員が多く、歩行困難でも入浴は2人介助で湯船に浸かる支援を行い、排泄についても2人で支えながら便座に腰かけ自力で排泄が出来る事を目標に支援し改善されている利用者もいる。職員は研修を重ね、さらによい介護となるよう取り組んでおり、管理者は個人面談や業務で職員の希望を確認し勤務管理をしながら働きやすい職場環境を整えている。職員は理念カードを常に携帯し「おたがいさま」の気持ちを共有し日々の介護に結び付けながら細やかに利用者が毎日を穏やかに過ごせるよう寄り添いながら支援を行っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F大地)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者様の人としての尊厳を大事にし、自分達が実践している介護と照らし合わせ、職員それぞれが意見を出し合い、理念を作り上げた。理念を意識するよう施設内数か所に掲げている。研修時やカンファレンス時には、皆で、その理念の見直しや利用者・仕事への想いを再確認し、日々の介護につなげている。	理念はパンフレットに掲載しているほか、事業所の要所に掲示し来訪者も確認ができる。職員はネームカードに携帯している理念カードを確認し日々意識しながら、より良い介護ができるよう努めている。職員採用時や会議の際にも理念について考える機会を設け理念を共有できるように話している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	村内の文化祭にも作品を出品し、文化祭見学時も感染予防対策をしながら家族、知人、地域の方との交流を深めている。社会福祉協議会企画にも参加予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大防止もあり、利用者様の安全を考慮し断念しましたが、これからも地元とのつながりを大切に都度協議し、感染予防対策を交流できる場に参加していきたい。	利用者の作品を出品した村の文化祭に出向いて交流をしている。運営推進会議に町内会長や消防署長が構成メンバーとして参加している。村内無線で催し等の広報や地域の情報を収集している。日常的に地域との付き合いを行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議などで、地域の方々に参加して頂き、認知症についての理解を伝えている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	グループホームの近況報告や役場職員、消防署、社会福祉協議会、町内会会長、ご家族に参加して頂き、地域の情報を得、よりよいグループホームとなるための貴重な意見を頂いている。事前にテーマを決め、お便りや請求書送付時に日程、質問等の窓口もお知らせし、議事録を家族に送付している。	赤井川村役場の役職者が参加している他、家族も参加している。議事録に行事の報告や予定、研修、消防訓練、感染症状況等が記録され、参加者から意見が出されて回答するなど活発な運営推進会議となっていることが伺える。	利用者状況報告や事故・ヒヤリハット、職員の入退職の状況を加えた議事録を作成することを期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	2カ月に1度の運営推進会議に役場職員、消防署、社会福祉協議会の参加を得て、情報提供を受けている。出向いた際には、担当者に、空き室情報や事業所の実情を伝え、アドバイスを頂き、より良い施設になれるよう取り組んでいる。	赤井川村役場と密接に連絡を取り合い報告や相談を行っており、マイナンバーカード交付について相談し解決に結びついている。運営推進会議に役場の職員が参加していることで連携が取れている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所内の数箇所に身体拘束の禁止11項目を掲げて、身体拘束等適正化のための指針に基づき、委員会を設け、3カ月毎に委員会や研修時に周知や、説明、ケアについて常に問題意識を持ち話し合いながら、取り組んでいる。身体拘束は行っていない。契約時に身体拘束を行わない為に起こりうる事故等について家族に説明している。	指針に基づき3か月ごとに虐待・身体拘束廃止委員会を開催し、今年度は「身体拘束をしないケアの工夫」や「不適切ケアの放置による悪循環」と「高齢者虐待の考え方」で研修を行っている。玄関やユニット入口は防犯目的で施錠をしているが希望があれば職員同行で戸外へ出ている。	

グループホームあまらんす

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F大地)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	委員会を設けて実態の把握、ケアカンファレンス、社内研修においても協議、虐待となる前の不適切ケアの段階で解決していけるよう常に問題意識を持つようにしている。新たに虐待防止のための指針を作成しました。		

グループホームあまらんす

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F大地)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ご家族から相談を受け、小樽市社会福祉協議会に依頼しあんしんサービス事業支援を受けている方の支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、重要事項説明書・契約書を詳しく説明し、理解・納得して契約頂けるよう努めている。また、解約の際も利用者の立場に立ち、不安・不満のないよう、納得が得られるよう連絡を密にしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	スタッフが利用者の様子から察知し、不安な事や要望等を引き出すよう努めている。その意見を受けたスタッフはすぐに管理者に報告、対応する事を徹底している。	家族へ「あまらんす便り」を発送し生活状況の報告をしている。電話で健康状況の報告や通院状況を説明する際に出された意見は連絡帳に記録し職員で共有している。利用者の要望や意見を検討し実施している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	社内研修や各委員会、面談等で意見をすくいあげ、できる限り反映させるよう努力している。	職員は役割分担をしており、日々の業務で出される提案や意見で職場環境の見直しをしながら事業所の運営に反映させている。定期的個人面談を行っている。希望休や有給取得を促し働きやすい環境を整えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	本人の得意分野を生かし、適材適所に配置し、家庭環境に合わせた労働時間の配慮をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員が外部の研修を受けられるよう、常日頃、職員の育成に努めている。社内研修を毎月開催している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	新型コロナウイルス感染拡大防止の為、研修会等も自粛され、交流の機会がありませんでした。再開されれば参加したいと考えます。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F大地)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	管理者やケアマネのみならず、全てのスタッフが、理念に沿った介護をしながら、情報収集をし、それらを共有し、チームケアにより、利用者が安心して生活できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	いつでも電話等による相談を受け付け対応している。又、管理者が、対応できない時はスタッフが引継ぎ対応している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要となる社会資源を見極め、選定し、家族の了解を得られたら随時支援している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者一人ひとりのしぐさ、表情、会話の中から好きな事、得意な事を教えて頂きながら、できる事を見極め利用者の意思を確認しながら、日々の生活に生かせるよう関係を築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族関係を把握し、利用者と家族の気持ちを尊重し、必要に応じて対応している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	通院・ドライブの際に少し遠回りをして、自分の住みなれた街等を通るようにしている。玄関ブース内での事前予約面会を実施し、家族、知人等との面会、電話のやり取りを支援している。	家族への電話で利用者の伝言を伝えて希望の品を持ってきてもらっている。通院先で家族と面会するなど親しい人との関係継続の支援を行っている。通院の帰りに自宅前を通ってくることもある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の中にスタッフも交わり会話をしたり、行事やドライブ等の席や配車にも配慮し、孤立せずに信頼関係が出来るような支援をしている。		

グループホームあまらんす

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F大地)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後であっても、必要に応じて支援出来るように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で、ご本人の要望や困りごとを伺い、ご本人の希望や訴えに親身になってお話を伺っている。言葉にできない利用者は普段の行動、表情などを記録から職員間で情報を共有している。	健康管理委員会で毎月利用者のカンファレンスを行いアセスメントシートに反映させている。職員が利用者の服の袖や裾を短く縫うこともあり利用者の困りごとを察知し対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居以前に面談し、生活歴を把握し、また、日常会話の中からこれまでの様子を伺ったり、不明な点を家族に尋ねるなどして配慮している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの過ごし方を日誌やバイタルチェック表に記録し、重要な変化は連絡ノートに記録し、職員全員で共有している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	過去の既往歴や、生活歴をご家族から情報を得ながら、利用者にとって、日常生活の何を支援すればスムーズに心地良く生活できるのかをカンファレンス等で常に話し合っている。支援経過表の項目欄余白に目標番号を記載し支援を行った際に目標番号に印をつけている。	モニタリングは3か月ごとに行い変化や課題を検討している。アセスメントシートも介護計画作成ごとに更新しサービス担当者会議で利用者や家族の意見を取り入れ現状に即した介護計画を作成している。変化の見られる場合は都度見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や、気づき等は、スタッフの連絡ノート等で把握し、個別記録等にもれなく記帳、カンファレンス等で話し合っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	自社で温泉施設を運営管理しており、ご家族、利用者、スタッフとの交流会に貸し切り、親交を深めました。新型コロナウイルス感染症など落ち着いたら再開します。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	社会福祉協議会や村の行事に参加し、交流を深め楽しむことができるよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の要望を出るだけ尊重し、かかりつけ医と連携を取りながら支援している。受診内容を利用者ごとの受診記録、連絡帳に記載し職員間で情報を共有している。	利用開始前からのかかりつけ医への受診も可能であり、通院同行している。他科受診を含め、受診後は診療内容を記録に残し職員間で共有している。看護師は職員として配置している。	

グループホームあまらんす

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F大地)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は、日常生活の中で得た情報を看護師に伝え、協議し受診説明を作成し、主治医との連携を取り、受診出来るよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者が入院した際は、家族との連絡を密にし、早期退院に向けて努力している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用開始時に医療連携に関する指針などの書類を説明し、同意を得ている。重度化している方の家族には、こまめに連絡を取り合い、随時、日常生活をより具体的に説明し、急変もあり得る事を納得して頂いている。重度化して医療が必要な場合は、スムーズに医療機関に移れるよう支援している。	利用契約時に「看取りについての健康管理書」を取り交わし、重度化した場合の本人や家族の希望を確認している。常時の医療行為の必要や食事が経口摂取できない場合は、主治医と家族・事業所が話し合い療養系の施設や医療機関への移行支援を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを作成し、研修し実践力を身につけている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策マニュアルを作成し、施設間や行政との協力関係につとめ、合同の避難訓練を行い、近隣の方には、日頃から何かあれば、協力し合えるよう、相談している。	前年に入浴中の地震災害を想定した訓練と今年3月と10月に夜間想定火災訓練と、原子力防災を想定した通報訓練を行っている。運営推進会議のメンバーに赤井川村の消防署長が参加し、町内会からの応援が得られる体制ができています。	家族へ災害時の指定避難場所の周知と、自然災害発生時における業務継続計画(BCP)の策定に期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日常生活の中で、利用者への声かけなど、プライバシーを損ねるような事があった場合、スタッフ同士の言葉がけで、尊厳が保たれるように対応している。	認知症の人をケアする研修で排泄、入浴、食事について学び年長者としての尊厳を守りプライバシーに配慮した介護法を学んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	耳の遠い方や理解が難しい方には、顔の表情を見ながら、ジェスチャー・スキンシップ等で伝え、なるべく自己決定して頂き、ストレスを感じさせないようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日常において日々の日課や行事等はあるが無理強いせず、時間をおいて再度声かけする等工夫し、一人ひとりのペースを尊重している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問の理美容で整容している。行事参加や外出の際、身だしなみのお手伝いしている。		

グループホームあまらんす

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F大地)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食べたい献立・物を伺い、できる範囲で希望の食事を作り召し上がって頂いている。行事食の時など、出来る範囲で参加して頂いている。テーブル拭き等無理のない程度に行って頂いている。ご自分で収穫したサクランボなども食事やおやつに召し上がって頂いています。	予め献立を決めているが、カレー、麺、丼物、パンの日を設定し楽しみの持てる食事に行っている。旬の食材を取り入れ彩りよく食べやすい形態で提供している。誕生会や行事では利用者のリクエストや季節を感じられるメニューにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分・食事の摂取量を記帳しており、スタッフはそれを見て、一人ひとりに合わせて支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者に応じたケアに努めている。舌専用のブラシ、唾液で誤嚥する可能性のある利用者には口腔ウェットペーパーを使用し口臭、風邪対策等に努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者の排泄パターンを把握し、排泄チェック表を常に確認し、タイミングを予測しながら、出来る限り、トイレで便座に座って頂き気持ちよく排泄し、洗浄できるよう支援している。	水分・トイレ回数表を確認しながら失敗の無いよう声かけ誘導しており、座位が保つ限り便座に腰かけ自然排便できるよう支援をしている。排泄リズムを大切に便通がスムーズになるよう毎朝乳製品を提供している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘に関しては、排泄チェック表で確認し、予防に取り組んでいる。スタッフ皆で工夫し水分補給・食物繊維・ヨーグルトやバナナを取り入れた食事等で自然排便を促している。体質的に便秘の方には、医師と相談の上対応している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者の意思を尊重して、同性介助の意向に沿い、声掛けを工夫し、気持ちよく入浴して頂けるよう支援している。	午前と午後に湯船の湯を交換し2人介助が必要な利用者も湯船に浸かりリラックスした入浴が出来る。同性介助にも対応しており湯上りはお茶やスポーツドリンク、コーヒーなど利用者の好みに合わせて水分補給をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の状態により安眠休息できるよう、スタッフが声かけ等で対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的や副作用、用法や用量について、薬局からの説明書により、理解し、飲んでいる薬が変更や休薬になった場合には、連絡ノートや受診記録により機敏に対応している。投薬マニュアルを作成し、職員全体が共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常の関わりの中で、利用者の役割、嗜好品や楽しみ事を感じ取り気分転換等の支援をし、ADLを少しでも維持出来るよう支援している。		

グループホームあまらんす

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F大地)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナウイルス感染拡大防止の為外出は控えているが今後は再開したいと考えている。又、地域の方からも情報を頂き、桜の花の満開期や、ひまわりの群生期にドライブ等外出の楽しみを多くしている。	庭先のブルーベリー畑や事業所周辺の散歩に加え、ドライブで桜の花見、サクラボ狩り、ひまわり畑コスモス畑の見学に出かけている。今後は以前のように外食や温泉に行けるよう計画をしたいと考えている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の希望に応じて支援している。お金を持つ事で、安心される利用者には、少額の金額を持てるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙やはがきが来て本人が返事を書きたいと希望の場合は、練習し、出す事を支援している。電話は本人の希望時にかけている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間は、大きな窓からの景色や壁掛け、置物などで四季を感じられる様にディスプレイを工夫している。また、懐メロなど流行っていた歌や音楽をかけて、懐かしんで頂き、居心地よく過ごせるよう工夫している。	可愛い季節飾りの掲示されたりリビングの大きな窓から広大な自然が見渡せる。ソファや好みの椅子に腰かけ歌やゲーム、お喋りや体操など楽しく過ごせる居室となっている。清掃が行き届き不快な光や刺激もなく温湿度管理され安心して寛げる空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各空間を利用し、思い思いに過ごせるよう椅子、テーブルを置き、一人になれる空間や仲間との居場所等に配慮している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居する際に使いたれた物を持って来て頂くようお願いし、本人の生活に一番合ったお部屋になるよう支援している。入居後に於いてもご本人の要望を家族に伝えて改善を試みている。	予めクローゼット、照明器具、パネルヒーター、ナースコールが備えられている居室にテレビ、椅子、ベッド、衣装ケースやお気に入りの小物を持ち込み自由に暮らしている。転倒しないよう安全に気を配って家具を配置している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自室を確認できるよう工夫し、お手洗いの目印を付け、混乱のないようにしている。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0192500015		
法人名	株式会社 アマランス		
事業所名	グループホーム あまらんす2F空		
所在地	余市郡赤井川村字赤井川409番地1		
自己評価作成日	令和5年 10月 12日	評価結果市町村受理日	令和6年1月9日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=koubou_detail_022_kani=true&JivgosvoCd=0192500015-00&ServiceCd=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和5年11月29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

◎日本で一番美しい村の一つである赤井川村の小高い丘に位置し、四季折々の色彩豊かな景色を眺め、心穏やかにお過ごし頂ける。
◎リビングの大きな窓から眺望、広い庭があり、ゆったりとした生活ができる。
◎お花見ドライブ、さくらんぼ狩りなど季節に合わせた行事計画参加して頂いています。
◎季節の素材を取り入れた行事食を召し上がって頂いている。
◎村の文化祭に利用者様の手作りの作品を出品したり見に行くなど、積極的に参加している。
◎地域のサークルに入会する等、地域一員として生活できるよう努力している。
◎火災避難訓練、地震避難訓練、原子力防災訓練で、緊急非常時に備えている。
◎運営推進会議には、役場職員、消防署、社会福祉協議会、町内会会長、ご家族に参加して頂いている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F空)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者様の人としての尊厳を大事にし、自分達が実践している介護と照らし合わせ、職員それぞれが意見を出し合い、理念を作り上げた。理念を意識するよう施設内数か所に掲げている。研修時やカンファレンス時には、皆で、その理念の見直しや利用者・仕事への想いを再確認し、日々の介護につなげている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	村内の文化祭にも作品を出品し、文化祭見学時も感染予防対策をしながら家族、知人、地域の方との交流を深めている。社会福祉協議会企画にも参加予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大防止もあり、利用者様の安全を考慮し断念しましたが、これからも地元とのつながりを大切に都度協議し、感染予防対策をし交流できる場に参加していきたい。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議などで、地域の方々に参加して頂き、認知症についての理解を伝えている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	グループホームの近況報告や役場職員、消防署、社会福祉協議会、町内会会長、ご家族に参加して頂き、地域の情報を得、よりよいグループホームとなるための貴重な意見を頂いている。事前にテーマを決め、お便りや請求書送付時に日程、質問等の窓口もお知らせし、議事録を家族に送付している。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	2カ月に1度の運営推進会議に役場職員、消防署、社会福祉協議会の参加を得て、情報提供を受けている。出向いた際には、担当者に、空き室情報や事業所の実情を伝え、アドバイスを頂き、より良い施設になれるよう取り組んでいる。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所内の数箇所に身体拘束の禁止11項目を掲げて、身体拘束等適正化のための指針に基づき、委員会を設け、3カ月毎に委員会や研修時に周知や、説明、ケアについて常に問題意識を持ち話し合いながら、取り組んでいる。身体拘束は行っていない。契約時に身体拘束を行わない為に起こりうる事故等について家族に説明している。		

グループホームあまらんす

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F空)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	委員会を設けて実態の把握、ケアカンファレンス、社内研修においても協議、虐待となる前の不適切ケアの段階で解決していけるよう常に問題意識を持つようにしている。新たに虐待防止のための指針を作成しました。		

グループホームあまらんす

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F空)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ご家族から相談を受け、小樽市社会福祉協議会に依頼しあんしんサービス事業支援を受けている方の支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、重要事項説明書・契約書を詳しく説明し、理解・納得して契約頂けるよう努めている。また、解約の際も利用者の立場に立ち、不安・不満のないよう、納得が得られるよう連絡を密にしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	スタッフが利用者の様子から察知し、不安な事や要望等を引き出すよう努めている。その意見を受けたスタッフはすぐに管理者に報告、対応する事を徹底している。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	社内研修や各委員会、面談等で意見をすくいあげ、できる限り反映させるよう努力している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	本人の得意分野を生かし、適材適所に配置し、家庭環境に合わせた労働時間の配慮をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員が外部の研修を受けられるよう、常日頃、職員の育成に努めている。社内研修を毎月開催している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	新型コロナウイルス感染拡大防止の為、研修会等も自粛され、交流の機会がありませんでした。再開されれば参加したいと考えます。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F空)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	管理者やケアマネのみならず、全てのスタッフが、理念に沿った介護をしながら、情報収集をし、それらを共有し、チームケアにより、利用者が安心して生活できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	いつでも電話等による相談を受け付け対応している。又、管理者が、対応できない時はスタッフが引継ぎ対応している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要となる社会資源を見極め、選定し、家族の了解を得られたら随時支援している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者一人ひとりのしぐさ、表情、会話の中から好きな事、得意な事を教えて頂きながら、できる事を見極め利用者の意思を確認しながら、日々の生活に生かせるよう関係を築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族関係を把握し、利用者と家族の気持ちを尊重し、必要に応じて対応している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	通院・ドライブの際に少し遠回りをして、自分の住みなれた街等を通るようにしている。玄関ブース内での事前予約面会を実施し、家族、知人等との面会、電話のやり取りを支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の中にスタッフも交わり会話をしたり、行事やドライブ等の席や配車にも配慮し、孤立せずに信頼関係が出来るような支援をしている。		

グループホームあまらんす

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F空)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後であっても、必要に応じて支援出来るように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で、ご本人の要望や困りごとを伺い、ご本人の希望や訴えに親身になってお話を伺っている。言葉にできない利用者は普段の行動、表情などを記録から職員間で情報を共有している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居以前に面談し、生活歴を把握し、また、日常会話の中からこれまでの様子を伺ったり、不明な点を家族に尋ねるなどして配慮している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの過ごし方を日誌やバイタルチェック表に記録し、重要な変化は連絡ノートに記録し、職員全員で共有している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	過去の既往歴や、生活歴をご家族から情報を得ながら、利用者にとって、日常生活の何を支援すればスムーズに心地良く生活できるのかをカンファレンス等で常に話し合っている。支援経過表の項目欄余白に目標番号を記載し支援を行った際に目標番号に印をつけている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や、気づき等は、スタッフの連絡ノート等で把握し、個別記録等にもれなく記帳、カンファレンス等で話し合っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	自社で温泉施設を運営管理しており、ご家族、利用者、スタッフとの交流会に貸し切り、親交を深めました。新型コロナウイルス感染症など落ち着いたら再開します。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	社会福祉協議会や村の行事に参加し、交流を深め楽しむことが出来るよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の要望を出来るだけ尊重し、かかりつけ医と連携を取りながら支援している。受診内容を利用者ごとの受診記録、連絡帳に記載し職員間で情報を共有している。		

グループホームあまらんす

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F空)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は、日常生活の中で得た情報を看護師に伝え、協議し受診説明を作成し、主治医との連携を取り、受診出来るよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者が入院した際は、家族との連絡を密にし、早期退院に向けて努力している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用開始時に医療連携に関する指針などの書類を説明し、同意を得ている。重度化している方の家族には、こまめに連絡を取り合い、随時、日常生活をより具体的に説明し、急変もあり得る事を納得して頂いている。重度化して医療が必要な場合は、スムーズに医療機関に移れるよう支援している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを作成し、研修し実践力を身につけている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策マニュアルを作成し、施設間や行政との協力関係につとめ、合同の避難訓練を行い、近隣の方には、日頃から何かあれば、協力し合えるよう、相談している。		

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日常生活の中で、利用者への声かけなど、プライバシーを損ねるような事があった場合、スタッフ同士の言葉がけで、尊厳が保たれるように対応している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	耳の遠い方や理解が難しい方には、顔の表情を見ながら、ジェスチャー・スキンシップ等で伝え、なるべく自己決定して頂き、ストレスを感じさせないようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日常において日々の日課や行事等はあるが無理強いせず、時間において再度声かけする等工夫し、一人ひとりのペースを尊重している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問の理美容で整容している。行事参加や外出の際、身だしなみのお手伝いしている。		

グループホームあまらんす

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F空)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食べたい献立・物を伺い、できる範囲で希望の食事を作り召し上がって頂いている。行事食の時など、出来る範囲で参加して頂いている。テーブル拭き等無理のない程度に行って頂いている。ご自分で収穫したサクランボなども食事やおやつに召し上がって頂いています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分・食事の摂取量を記帳しており、スタッフはそれを見て、一人ひとりに合わせて支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者に応じたケアに努めている。舌専用のブラシ、唾液で誤嚥する可能性のある利用者には口腔ウェットペーパーを使用し口臭、風邪対策等に努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者の排泄パターンを把握し、排泄チェック表を常に確認し、タイミングを予測しながら、出来る限り、トイレで便座に座って頂き気持ちよく排泄し、洗浄できるよう支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘に関しては、排泄チェック表で確認し、予防に取り組んでいる。スタッフ皆で工夫し水分補給・食物繊維・ヨーグルトやバナナを取り入れた食事等で自然排便を促している。体質的に便秘の方には、医師と相談の上対応している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者の意思を尊重して、同性介助の意向に沿い、声掛けを工夫し、気持ちよく入浴して頂けるよう支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の状態により安眠休息できるよう、スタッフが声かけ等で対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的や副作用、用法や用量について、薬局からの説明書により、理解し、飲んでいる薬が変更や休薬になった場合には、連絡ノートや受診記録により機敏に対応している。投薬マニュアルを作成し、職員全体が共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常の関わりの中で、利用者の役割、嗜好品や楽しみ事を感じ取り気分転換等の支援をし、ADLを少しでも維持出来るよう支援している。		

グループホームあまらんす

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F空)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナウイルス感染拡大防止の為外出は控えていたが今後は再開したいと考えている。又、地域の方からも情報を頂き、桜の花の満開期や、ひまわりの群生期にドライブ等外出の楽しみを多くしている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の希望に応じて支援している。お金を持つ事で、安心される利用者には、少額の金額を持てるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙やはがきが来て本人が返事を書きたいと希望の場合は、練習し、出す事を支援している。電話は本人の希望時にかけている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間は、大きな窓からの景色や壁掛け、置物などで四季を感じられる様にディスプレイを工夫している。また、懐メロなど流行っていた歌や音楽をかけて、懐かしんで頂き、居心地よく過ごせるよう工夫している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各空間を利用し、思い思いに過ごせるよう椅子、テーブルを置き、一人になれる空間や仲間との居場所等に配慮している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居する際に使いなれた物を持って来て頂くようお伝えし、本人の生活に一番合ったお部屋になるよう支援している。入居後に於いてもご本人の要望を家族に伝えて改善を試みている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自室を確認できるよう工夫し、お手洗いの目印を付け、混乱のないようにしている。		

目標達成計画

事業所名 グループホーム あまらんす

作成日：令和 5年 12月 20日

市町村受理日：令和 6年 1月 9日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	利用者状況報告や事故・ヒヤリハット、職員の入退職の状況を加えた議事録を作成することを期待したい。	運営推進会議議事録に事故・ヒヤリハットや職員の入退職の状況を加えることにより、充実した議事録を作成することを目指します。	運営推進会議議事録に事故・ヒヤリハット、職員の入退職の状況を加え充実した議事録を作成し、ご家族や関係者に情報提供するよう取り組みます。	3カ月
2	35	家族へ災害時の指定避難場所の周知と、自然災害発生時における業務継続計画(BCP)策定に期待したい。	災害時の指定避難場所を再度関係機関に確認し、家族に周知し、自然災害発生時の業務継続計画(BCP)については、策定中であり、行政や関係機関にも協力頂き、令和6年3月上旬の策定を目指します。	非常災害総合対策計画と感染症予防及びまん延防止マニュアルをもとに、行政や関係機関にも協力を頂き、業務継続計画(BCP)の策定に取り組めます。	3カ月
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。